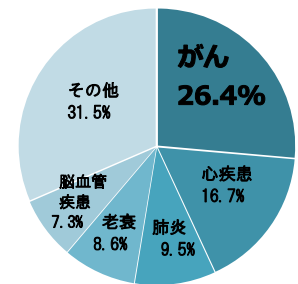


これから受けるがん検診のこと

がん検診説明書

- 日本人の2人に1人が生涯のうちに「がん」にかかり、3人に1人が「がん」で亡くなっています。
- 和歌山県においても、「がん」は昭和54年から現在まで死亡原因の第1位という状況です。
- 特に肺がん・大腸がん・胃がんは、がんの死亡の上位に位置しています。また、乳がんは女性におけるがん死亡の上位に位置しており、子宮頸がんの罹患は比較的多く、近年増加傾向にあります。

和歌山県の死亡割合



平成28年人口動態統計

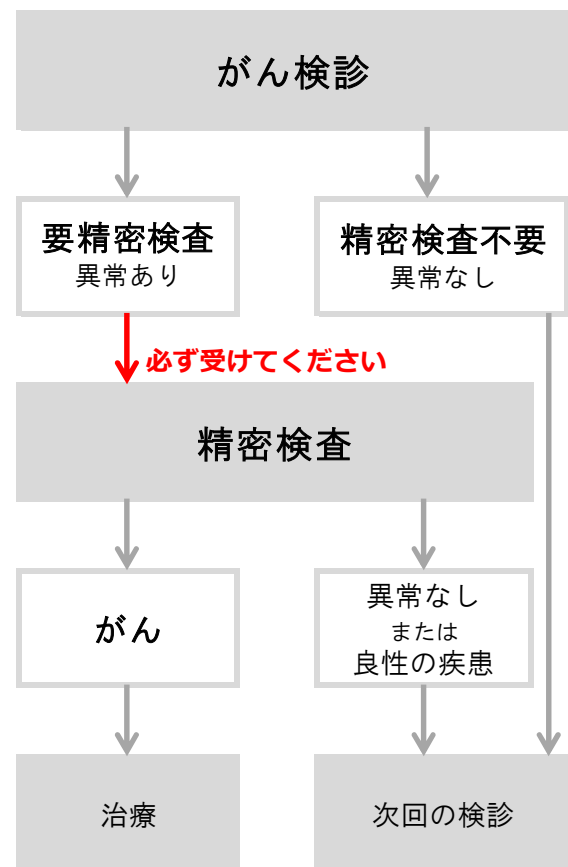
がん検診を受ける前に

- 胃・肺・大腸・子宮頸・乳がん検診は「死亡率を減少させることが科学的に証明された」有効な検診です。
- すべての検診にはメリットとデメリットがあります。がん検診を正しく理解し、早期発見、治療で大切な命を守るために、定期的に検診を受診し、「要精密検査」という結果を受け取った場合には必ず精密検査を受けるようにしてください。

がん検診のメリット・デメリット

- 検診を受けることでがんによる死亡リスクが減少します。
- 検診は定期的に受けてください。ただし、自覚症状がある場合は次の検診を待たずに医療機関を受診してください。
- 検診で「要精密検査」となった場合は、その後必ず精密検査を受けてください。
- 検診では、すべてのがんを見つけることができません。がんは発生してから一定の大きさになるまでは発見が難しく、検診では見つけにくいがんもあります。
- 検診では、がんでないのに「要精密検査」と判定されることもあります。
- 検診は自治体と各検診機関が連携して行っています。検診結果や精密検査結果は、全て市町村へ報告されます。がん検診の精度向上のため、受診した検診機関と異なる医療機関で精密検査を受けた場合でも、両方の機関が結果を把握します。市町村はこれらの結果をがん検診の精度向上のために使用します。

がん検診の流れ



がん検診や精密検査の検査方法については、裏面をご確認ください。

がん検診と精密検査について

胃がん検診（2年に1回）

検診の方法

●胃のX線検査

発泡剤とバリウムを飲み胃の中の粘膜を観察する検査です。

●胃内視鏡検査

口または鼻から胃の中に内視鏡を挿入し、胃の内部を観察する検査です。



精密検査の方法

●胃内視鏡検査

X線検査後の精密検査は、胃内視鏡検査を行います。検診が胃内視鏡検査の時は、検診時に同時に生検（組織を採取し、悪性かどうか調べる検査）を行う場合があります。

大腸がん検診（1年に1回）

検診の方法

●便潜血検査

便に混じった血液を検出する検査です。ご家庭で2日分の便を採取します。がんによる出血は通常は微量で目に見えません。

精密検査の方法

●全大腸内視鏡検査

肛門から内視鏡を挿入して大腸を調べます。必要に応じて組織を採取して診断します。

●内視鏡検査と大腸のX線検査の併用法

内視鏡が届かない奥の大腸をX線検査で調べます。大腸全体をX線写真で様々な方面から撮影します。

肺がん検診（1年に1回）

検診の方法

●肺のX線検査

レントゲンにより、胸の病変を見つける検査です。



精密検査の方法

●CT検査

X線を使って病変が疑われた部位の断面図を撮影し詳しく調べます。

●気管支鏡検査

気管支鏡を口や鼻から気管支に挿入して病変が疑われた部分を直接観察します。必要に応じて組織を採取し悪性かどうか診断します。

喫煙と肺

たばこを吸わない人に比べて、たばこを吸う人は日本人男性では約5倍、女性では約4倍肺がんで亡くなるリスクが高くなり、たばこを吸う年数、本数が多いほど肺がんになりやすいという研究結果がでています。

たばこは喫煙者本人のみならず、周りの人（受動喫煙者）の肺がんのリスクもあげてしまいます。禁煙によってご自身と周りの人の健康な肺を守りましょう

がん検診の対象者

胃がん検診：50歳以上の男女
肺・大腸がん検診：40歳以上の男女
乳がん検診：40歳以上の女性
子宮頸がん検診：20歳以上の女性

乳がん検診（2年に1回）

検診の方法

●マンモグラフィ

小さいしこりや石灰化を見つけることができます。



精密検査の方法

●マンモグラフィの追加検査

疑わしい部位を多方面から撮影します。

●超音波検査

超音波で、疑わしい部位を詳しく観察します。

●細胞診、組織診

疑わしい部位に針を刺して細胞や組織を採取し悪性かどうか診断します。

子宮頸がん検診（2年に1回）

検診の方法

●子宮頸部の細胞診

子宮頸部を、専用の器具で擦って細胞を取って、がん細胞など異常な細胞がないか調べます。



精密検査の方法

●コルポスコープ検査

コルポスコープ（膣拡大鏡）を使って子宮頸部を詳しく観察します。異常な部位が見つければ、組織を採取し、悪性かどうか診断します。

細胞診の結果によっては、HPV検査を行い、コルポスコープ検査が必要かどうか判断することもあります。